

歴史を継承した施設を活用し新たな学修拠点を創出

Cruciform Hub（十字型のハブ）



地下1階だが自然光が入る人気の個人学修エリア
設置されたPCは自由に利用でき、無線LAN完備で持ち込みPCも利用できる



20世紀初頭に大学病院の施設として建てられた建物



セキュリティゲートの奥にあるサービスデスクも24時間対応

【ポイント】

過去の歴史を伝える工夫を取り入れた
施設の再生

学内の歴史を伝え

帰属意識を高める展示・内装

- かつての大学病院の建物を改修して作られたことから、医学部の歴史を伝える展示やインテリアデザインがスペース全体に用いられている。
- 什器やインテリアは、学生をワークショップに招き意見を集め、学生が「自分たちの場所」であると感じられるように工夫されている。



PCルームのガラス張りの壁にも内臓標本などと共に医学部の歴史が紹介されている

PCがどこでも使える環境を整備

- PCが設置されたエリア以外でも持ち込みPCが使えるよう、コンセント付きの机が置かれた学修エリアを整備。
- 1日貸し出し用のノートPCを30台完備し、セルフサービス式の充電式ラックに収納。Cruciform Hubの外にも持ち出し可能。
- グループ学修エリアと個人学修エリアが近接し、学生が目的に応じて自由に使い分けている。グループ学修エリアは携帯電話の利用や飲食も許可されている。



収納可能なディスプレイがついたファミリーレストラン風の席は学生に人気（床の色が変わるところから奥が個人学修エリア）

整備による効果

学内外の利用者支持を獲得

- 医学部キャンパスの中心に位置しているため、医学部生の利用が多いが、ICT 環境の充実など今日的なニーズに応えた学修環境であるため、その他の学部や病院職員の利用も多い。

学生の満足度向上

- 学生の意見を踏まえた ICT 環境と開館時間、サービスを提供しており、2 年に 1 度行う図書館への満足度調査で、学修スペースに関する満足度が向上している。



ICT サポートも行うサービスデスク
11 人のフルタイムスタッフが所属

整備の背景・目的

- 所有する歴史的建物を現代のニーズやサステナビリティを意識して、改修・維持していくことをキャンパスマスタープランの基本方針の 1 つにしている。
- 全学的に図書館整備を通して、学修スペースの充実を図ることとした。
- Cruciform Hub は建物自体の構造は保持し、内部改修により新しい学修スペースに整備した。



地下 1 階の Cruciform Hub に降りる階段
建物の構造が分かる

更なる展開

利用者の整備計画参画を継続・発展

- 学修スペースを「ライブラリーハブ」として学内の学修コミュニティ活性化につなげ、また貴重な UCL の文化的財産を展示する場所として整備したモデルプロジェクトとなっている。
- Cruciform Hub の成功に習い、今後の図書館改修整備にも、初期段階から利用者である学生やスタッフと共に計画を進め、サービスと施設に関するフィードバックを積極的に進める。

ライブ利用管理システムの完備

- 学修スペースの効率的な運用のため、大学内の全学修スペースの利用状況を共通 web サイトで管理することを計画している。